

核なき世界へ 平和行進

毎年、核兵器廃絶を求めて東京から広島までを歩く「国民平和行進」は今年も、コロナで行程を縮小しつつも岡山県を通りました。



岡山市役所から南区のコースの先導として歩く東市議(右端・7/20)

市民の声が国を動かす

広島への原爆投下後、放射性物質を含む「黒い雨」を浴びた人たちを、広島高裁は被爆者と認める判決を下しました。当初国は最高裁まで争う構えでしたが、7月26日上告を断念しました。市民が声をあげ、広島県や広島市も動いたことが力になりました。

核兵器禁止条約に参加を

2017年7月に国連で採択された核兵器禁止条約は、今年1月22日に発効しました。史上初めて核兵器を違法化する条約で、現在55カ国・地域が批准しています。

しかし日本政府は批准を拒んだままです。核兵器禁止条約に参加する政府の声を、岡山市から広げることが必要です。

プラ被覆肥料 環境と農業の両立を

7月21日、NPO「グリーンパートナーおかやま」が、被覆肥料について国、県、岡山市との意見交換会を開きました。被覆肥料とは、田んぼに年一回まいたら追肥が要らない、いわゆる「一発肥」です。農作業の負担を大きく減らせるので、今は水田の

6割で使われていると報道されています。

被覆肥料を覆っているのはプラスチックです。河川から海に流出しており、



でも西岸の旭川でも多くの被覆肥料の殻が落ちています

マイクログプラスチック汚染が危惧されています。

県は流出防止の啓発ビラを作りましたが、参加した農家から「見たことがない」と声が上がりました。

被覆肥料の利用が増える理由は、低い米価で農業を続けづらく、担い手が高齢化して手をかけられないからだ、参加者から指摘がありました。環境を守るために農業を守ることが必要です。

ひびく

新型コロナウイルスの感染が東京圏などで広がり、岡山市でも増え始めています。岡山市のワクチン接種の計画は遅れており、PCR検査の対象拡大で無症状感染者を見つけることが、今できる最大の感染抑止策です。しかし動きはありません。打てる手を打たずに感染を広げるなら、まさに「人災」です。(東つよし)

あずま
東

つよしの

奔西走



い、いわゆる「一発肥」です。農作業の負担を大きく減らせるので、今は水田の